

高等学校

平成 8 年 度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の経過	1
III	研究の視点	2
1	情報活用能力とその育成	2
2	情報活用能力の育成と家庭科教育	3
(1)	情報活用能力育成における家庭科の視点	3
(2)	情報活用能力の育成と消費者教育	3
(3)	インターネットと家庭科教育	4
IV	「食生活」の指導	6
1	「食生活」における情報活用能力の育成	6
2	「食生活」の指導計画	6
3	指導事例1 栄養パソコンソフトを使った栄養診断	7
4	指導事例2 食品の多様化と消費者の態度 ー新しい食品の選択ー	9
5	指導事例3 視点を変えて調理した結果の比較・検討	13
6	指導事例4 米をテーマにした発表・討論学習	15
V	「住生活」の指導	18
VI	「保育」の指導	21
VII	研究のまとめと今後の課題	24

平成8年度

教育研究員名簿

学 校 名	氏 名
都立九段高等学校	高 橋 靖 子
都立新宿山吹高等学校	伊 東 純 子
都立武蔵丘高等学校	三 野 直 子
都立竹台高等学校	山 崎 靖
都立館高等学校	島 田 恵 子
都立八王子高陵高等学校	小 林 礼 子

担当 指導部高等学校教育指導課指導主事 清 水 ゆかり

I 主題設定の理由

現代社会の情報化は、今後ますます拡大し、加速化することが予想される。そして、この社会の情報化は家庭生活にも大きな影響を与えており、人は様々な場面において情報をもとに生活を営み、活動している。情報化社会においては、的確な情報を必要なだけ得ること、そして得た情報に対して適切な判断・行動をすることが、生活の質の向上に大きく寄与するのである。

高等学校家庭科では、主体的に生活ができる能力と実践的態度の育成を指導目標の一つとしている。これは、変化する社会情勢、多様化する価値観の中で、自らの生活課題を発見し、判断・行動することにより問題を解決し、生活を創造することができる能力の育成と言い換えることができる。そこで、この変化の激しい時代において、社会に対応し、主体的に価値判断ができ、意欲的、創造的に生活できる人間を「自立した生活者」と考えた。

情報化社会において自立した生活者に必要な能力の第一は、情報を使いこなす力と考えられる。情報化が進展する中で、情報へのアクセスはますます容易になる。このような情報の洪水の中では、情報を批判的に見る心構えや、情報に振り回されない態度が必要である。すなわち、氾濫する生活情報を質と量の両面から検討し、自分自身の価値観と広い視野から必要な情報を選択し、優先順位を決定できる能力が必要である。第二は、入手した情報からより価値のある新しい情報を生み出す力と考える。情報は、それを受け取った人間の行動や思考を通してはじめて意味をもつ。入手した情報からより価値のある新しい情報を創造し、責任をもって発信し、行動し得る能力が必要なのである。そして、これらの能力を身に付け、変化する新しい状況に適した生き方をする自立した生活者であるためには、自ら学び続ける力が必要であることは言うまでもない。

本年度の教育研究員は、このような社会情勢を踏まえ、これからのより情報化の進展する社会を生きる生徒が自立した生活者として健康でより豊かな生活を送るためには、様々な情報手段について認識し、氾濫する生活情報の中から適切な情報を活用できる能力を育成することが大切であると考えた。そこで、「情報活用能力を培い、自立した生活者を育成する指導内容・方法の工夫」を主題に設定し、研究を進めた。

II 研究の経過

5月	研究主題設定・研究方法の協議	10月	研究報告書原稿の検討
6月	研究内容・方法の協議		研究授業（八王子高陵）
7月	研究内容の協議・御岳合宿の準備	11月	研究報告書原稿の読み合わせ
8月	御岳合宿・研究授業の内容検討		研究授業（館・九段・武蔵丘・竹台）
9月	授業指導案の検討	12月	最終原稿の読み合わせ
	研究授業（新宿山吹）	1月	研究発表会の準備
		2月	研究発表会

Ⅲ 研究の視点

1 情報活用能力とその育成

情報化社会といわれる現在を生きる私たちは、各種メディアを発信源とした様々な情報にさらされている。その量は、時に私たちの処理能力を超えたものとなり、適切な処理や判断ができず、情報に振り回されてしまいかねない。また、インターネットや携帯電話などの新たなメディアの普及により、生活様式も急速に変わりつつある。この傾向は、今後、ますます多様化し、拡大していくものと予想され、社会生活の中で情報を判断し活用できる能力を身に付けることが重要な課題となっている。そこで、学校においては、生徒が誤った情報や不要な情報に惑わされることなく、本当に必要な情報を取捨選択し、自ら情報を発信し得る能力、いわゆる情報活用能力を育成することが必要不可欠となっている。

このような新たな課題を生み出す情報化社会の中で、その牽引力ともなっているマルチメディアの利用は、教育にはかり知れない影響を与えるものと考えられる。まず、ソフトウェアの開発や進歩は、生徒の個別的な学習を可能にし、多彩な教材を提供することができるようになり、生徒の学習の在り方により多くの可能性がでてくるようになるものと予想される。また、情報化の進展に伴い、各学校が学校外の様々な機関、組織、人々と連携・協力し、学校単独ではなし得ない教育活動を展開することが可能となる。さらに、情報通信ネットワークの普及により、必要な情報を迅速に入手でき、インターネットなどの活用によりその範囲を世界に広げることも可能となる。このことは、生徒の学習素材及び興味・関心をより広くより豊かにすることにつながるものである。しかし、個別学習の徹底やコンピュータによる疑似体験の増加は、教師と生徒、あるいは生徒同士の人間関係の希薄化や実体験の不足などを引き起こす恐れがあることを忘れてはならない。

情報活用能力の育成とは具体的に次のようなことである。まず第一にあげられることは、生徒に情報を選択・整理し、判断し、処理する能力を獲得させると同時に、新しい情報の創造や伝達をする能力を獲得させることである。これは、社会の情報化の進展に生徒が主体的に対応していけるようになることを目的としている。第二は、生徒に情報化が社会と人間に与える影響を考えさせ、理解させることである。これは情報のもつ意味の重要性を認識させることを目的としている。第三は、生徒に情報に対する責任ある態度を身に付けさせることである。これは、情報の役割と価値を正確に認識し、プライバシーの保護や情報セキュリティの確保など情報化社会の基本的なルールを遵守させることを目的としている。そして最後に、生徒に情報科学の基礎となるコンピュータを代表とする情報処理方法の特徴を理解させ、基礎的な操作能力を習得させることである。これは、情報の発信源を操作する基本的な能力を身に付けることを目的としている。

情報化の進展に伴う人間関係の希薄化や実体験不足への対処については、メディアはあくまでも人間を助ける道具であり、行動は自らの意思と責任においてするものであるということを、生徒に十分に理解させることで回避できると思われる。

以上により、情報活用能力の育成とは、情報化社会に主体的に対応し、それを十分に活用できる技能を身に付けさせると同時に、情報の重要性を理解させ、情報に対する責任感をもたせるようにすることと言える。

2 情報活用能力の育成と家庭科教育

(1) 情報活用能力育成における家庭科の視点

情報活用能力は、すべての教科・科目の指導を通じて育成することになっている。

家庭科教育の視点でこれについてどう取り組むべきかを考えるには、他教科にない家庭科の特質を見つめ直す必要がある。家庭科は生活に密着した教科であり、多様化する家庭生活や変化する社会情勢の中で、絶えず情報を各側面から総合的に判断し、生活者としてあるいは家族の一員、社会の一員、地球の一員としてよりよい生き方ができるための実践力を身に付けさせるところに大きな特色がある。

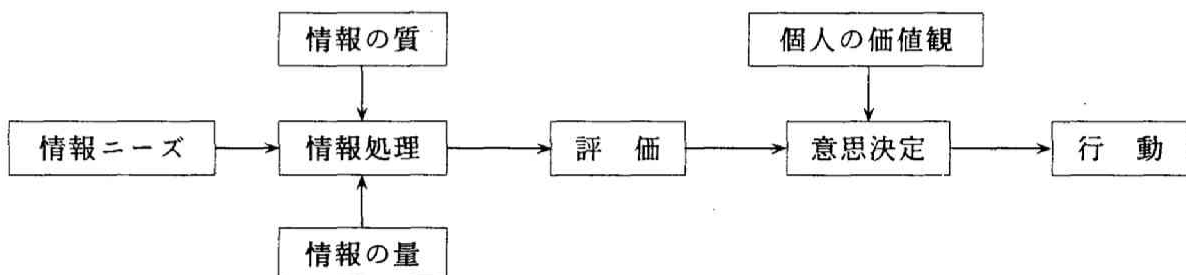
社会が著しく変化する状況下でも、生活課題に対処できる実践力を身に付けさせることが、自立した生活者を育成する家庭科教育には重要である。そのためには、教師は家庭や社会の変化にも弾力的に対応できる教材を準備していく必要がある。そして教師が知識や結論を一方的に教え込むのではなく、生徒が課題を自分自身のこととしてとらえ、自分の考えを生かして主体的に解決していける力を育成する教育が家庭科教育に求められている。特に情報化が進展するこれからの時代を生きる生徒が、健康でより豊かな生活を創造していくためには、情報活用能力を身に付け、適切な判断ができる資質を養うことが重要な課題となる。

このような立場から、家庭科教育における情報活用能力育成の視点を考えると、入手した情報を的確に判断して、いかに意思決定をすることができるかという意思決定の過程（プロセス）を教える「過程の教育」に重点をおき指導することが大切となる。これは消費者教育の目標とも一致する。情報を適切に判断して責任ある意思決定行動をすることは、自己の生活の質を向上させるだけでなく、社会へ働きかけることもできる。つまり生活者（消費者）という立場から自らが情報の発信者となり、企業や行政に責任ある経済行為を促す行動をとることができるのである。そういう点で、意思決定は自己の生活を管理する側面と社会参加の二側面があり、情報や行動に対する責任まで意識させた指導の取り組みが必要である。

(2) 情報活用能力の育成と消費者教育

家庭科の授業で具体的に情報活用能力を育成するには、「生活の中での身近な情報を収集・選択し、適切な価値判断の下に意思決定をし、評価しながら実践へと導く」学習が有効であると考えられる。これを指導するに当たっては、学校における消費者教育の先駆的役割を果たしていると考えられるアメリカ・ノースダコタ州の消費者教育カリキュラムモジュールを分析して体系化した、消費者教育領域（消費者行動の五過程）・過程別能力目標に立った指導内容が大変参考となる。

消費者教育の過程は、調査・分析の過程、価値判断の過程、意思決定の過程、行動の過程、行動アセスメントの過程に分類して考えることができる。消費者教育を行う場合、この過程



に応じた目標を定めて指導する必要がある。まず調査・分析過程においては、情報収集能力つまり情報手段を活用するための知識や技能が必要である。例えば、必要な情報や正確な情報を数多く収集するためには、どうすれば情報が手に入るか情報へのアクセスを知らせたり、「5W1H」(日時・場所・人・対象・目的・方法)を手がかりにさせることにより、学習者が自ら積極的に情報を収集できる能力を培う必要がある。次に価値判断の過程や意思決定の過程においては、集めた情報の選択、整理、処理能力が必要とされると同時に、自己の価値観を明確にする必然性が生じてくる。つまり、収集した情報を有効に活用できるよう基準を決め、分類・整理できるようにするためには、自分にとって何が重要なのか、人間らしい豊かさとは何か、次世代の生活をどのように考えるか、生活者の権利・義務・責任とは何かなどについての価値作りができ、必要な価値を選べる能力を培う必要がある。さらに適切な選択・判断をするためには、必要な価値の優先順位が決定できる能力が必要となる。このため、社会的、文化的、経済的視点から価値そのものを深く探ることができたり、短期・長期の生活への影響を評価できたりする能力を育成していく指導も必要となってくる。そして行動の過程や行動アセスメントの過程においては、自己の価値判断の実現と同時に行動に対する責任といったものも必要とされる。以上より、消費者教育の過程(プロセス)を家庭科において育成したい情報活用能力と考えた。

これまでの情報教育は、主に情報手段の活用に目が向けられ、コンピュータを中心としたマルチメディアの導入やそれへの対応が主流であった。しかし、現実にはそれを活用するに当たっては、情報の選択・整理や処理能力を支える価値観や判断力の育成が最も重要であると考えられる。そしてそれに加え、情報化社会の基本的なルールを作り守るためには、情報や行動に対する責任感の育成も大きな問題であると言える。

(3) インターネットと家庭科教育

高度情報通信社会の中であって、学校教育においてもインターネットに代表される情報通信ネットワークの活用を進めていくことが求められている。そこで、家庭科の授業でのインターネットの活用法について検討してみた。

第一は、情報収集手段としての活用である。例えば、WWWを使った情報検索ができる。世界中のWWWサーバ上には多種多様な情報があり、この情報をキーワードや分類項目を利用して検索することができる。また、商用データベースの利用、アンケート調査等も可能である。第二は、情報発信手段としての活用である。例えば、ホームページやレポート等、生徒の作品を広く公開することができる。発信した情報に対する受け手側の感想や評価等が得られれば、生徒にとっても大きな励みになると考える。第三は、情報交換手段としての活用である。例えば、「高齢者福祉」等について、複数校で討論や電子メールを利用したコミュニケーションが可能となる。このような活動を通して、情報にアクセスするための新しい技術の習得や、活動の成果を具体的に表現し正確に伝えられる能力や発信する情報に対する責任感等の育成が期待できる。

しかし、授業という限られた時間の中でインターネットを活用するためには、生徒が利用できる端末及びインターネットアクセス回線数の増加、短時間での情報入手を可能とするインターネットの高速化や情報提供サーバの処理能力の向上が課題となる。

家庭科における消費者教育領域・過程別目標

消費者教育の過程		調査・分析過程	価値判断過程	意思決定過程	行動過程	行動アセスメント過程
消費者教育の 領域と項目	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 問題の発見と確認ができる 解決に必要な情報の収集と整理ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 価値判断の基になる価値作りができる 必要な価値が選べる 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な価値の優先順位が決定できる 最優先するものの質的量的選択ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 選択した価値を実現するための消費者行動ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者行動を行った直後の生活の変化が測定できる 消費者行動が将来にもたらす影響についての予想ができる
	領 域	項 目				
I	家庭生活の価値形成	<ul style="list-style-type: none"> 人間が人間らしく生きていくために必要な社会的・文化的・経済的な能力、価値とは何かを認識する 価値作り（能力の開発）に必要な情報を収集したり調査を行い、そのデータの分析・整理ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の価値を決める要素（健康、平和、富み）の意味やその内容がわかる 生活の必要を満たす価値が何であるかがわかる 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの価値基準によってどんな能力・価値を開発していくかが決められる 最優先する価値の選択ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な能力の実現に努力する それぞれが目指す文化的・社会的・経済的価値作りのために行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 諸能力の獲得・習得による生活の変化が測定できる 将来の生活の変化も予想できる（個人・家族を中心としたもの）
	II	個人・家族と消費	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の発達を知るデータの収集と整理ができる 自分の家族に発生した消費者問題の調査と分析ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家族の望ましい発達にはどんな価値が必要か、その分類ができる 自分や家族を中心とした健康安全、平和などの価値理解ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活に必要な価値（生活環境の要素）の優先順位が決定できる 最優先するものの価値が個人や家族の間で決定できる 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経営の計画ができる 個人や家族の消費生活に必要な価値的要素（節約、貯蓄、投資、借金など）の計画・設計ができる
III	生活財と家庭生活	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活の経営に必要な生活財の分類ができる 必要な生活財についての情報を収集・分析して、資源としての質的・量的実情が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 個人や家族にとって必要な価値（生活財として）の分類ができる 望ましい生活経営に必要な生活環境の指標化ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経営に必要な生活財の機能を知って選択できる 必要な生活財の質的量的価値の評価ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 経済生活に必要な社会的機能（法律、行政機関、公共サービスなど）の活用ができる 社会施設の利用、地域の文化活動や社会奉仕ができる 消費者組織活動への参加ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経営にかかわる消費者問題の変化の測定ができる 公共サービスの活用状況が評価できる 選択した生活財が生活経営に与える影響の調査・評価ができる 生活財購入後の評価と問題の処理ができる
	IV	消費生活活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活活動の課題が認識できる 消費者問題解決の試案が立てられる 問題解決に必要なデータの収集と分析ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活活動を規定する価値の分類ができる 消費生活活動としてそれに関連する価値を結び付けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 購買計画とその優先順位が決定できる 消費者問題を解決していく順位と、行動の決定ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 商品の効果的な使用・管理ができる 製作（創作、更生も含む）、実習、商品テストによって生活財の価値的要素を確認したり生活財としての価値を高めることができる 消費生活活動の実践によって消費者問題の課題研究ができる

『家庭科教育』1994年7月—家庭科における消費者教育—より

以上のことから、今年度の研究員は情報を収集し、選択・整理・処理し、意思決定をする過程の学習を通して、現在の生活や社会状況について考え、意欲的・創造的に生活できる力を育成する指導内容・方法について研究を進めた。

IV 「食生活」の指導事例

1 「食生活」における情報活用能力の育成

食事は体を作り、健康の基本であり、毎日欠かせないものである。しかし、そのことを意識せずに食べている生徒が多い。例えば、テレビでカップ麺など新商品が宣伝されるとすぐに飛び付き、雰囲気やファッションで食物を選択する。また、容姿が気になる年頃でありダイエットのために安易に欠食や節食を行っている。

現在、私たちの回りには膨大な量の生活情報が氾濫しているが、情報に踊らされることなく、主体的に情報と向き合い、その質を見極め、正しく判断・分析できる能力の育成が食生活においても望まれる。また、豊かで健康な生活を営むためには、様々な価値観がある中で自分の価値観や生活スタイルを確立することが重要である。そこで、栄養、食品の選択と購入、献立と調理、食品衛生等の学習を通して、日常生活に必要な技術と知識を習得させるだけでなく、情報活用能力についても身に付く事例を考えてみた。

具体的には、コンピュータを用いて栄養価計算を行い、健康な生活について考える事例、新しい食品について様々な情報を基に価値判断し、消費者の在り方について考える事例、他者の行動や体験を自分のそれと比較・検討することにより、理想とする食生活について考える事例、米をテーマに調査・研究・発表を行い、討論に発展させる事例を考えた。これらの事例を通して、情報を収集し、情報の質を分析・判断して活用する能力を培うことを試みた。

2 「食生活」の指導計画 (34時間)

指導項目	時間	指導内容	情報活用
1 食事と栄養			
(1)栄養素の特徴	4	・栄養素の働きを知ることにより、正しい食生活をすることの重要性を理解させる。	
(2)栄養所要量と食品群による摂取量のめやす	4	・1日に摂取すべき栄養所要量を知らせ、どんな食品をどのくらい摂取したらよいかのめやすを理解させる。 ・パソコンによる栄養診断 〔事例1〕	食品の模型 栄養計算ソフト
(3)食品の種類と特徴	2	・様々な食品のもつ栄養上、調理上の特性について理解させる。	
(4)献立作り	2	・食事計画を立て、実行させる。 〔事例3〕	料理の本
(5)調理実習・実験	12	・教科書に準じた実習・実験 糖度測定、食品添加物の検出等	
(6)食品の衛生	2	・食品の衛生および管理について理	新聞、ニュ

		解させる。	ース
2 現代の食生活の現状と課題			
(1)食品の安全	2	・食品添加物や残留農薬、輸入食品の実態を知ることにより安全性について考えさせる。	加工食品の表示 ビデオ
(2)食料自給率の低下	2	・我国の食料輸入の実態を知ることにより、農業、水産業、畜産業の置かれている状況について考えさせる。	「それでもあなたは食べますか」 「平成食卓考」
(3)食生活の多様化	2	・加工食品、外食産業が増大し、食生活が多様化する中で機能性食品や健康食品などの新しい食品に対して、消費者としての対応を考えさせる。 [事例2]	「食べ物の本当の色」
(4)食文化の継承と創造	2	・自然環境や社会環境と関連させながら、日本の食文化の成り立ちや特徴を理解させる。 [事例4]	

3 指導事例1 栄養パソコンソフトを使った栄養診断

(1) 題材設定の理由

情報化の中心となるコンピュータ等の情報機器を活用する能力を育成することは、情報を迅速に整理し、選択する上で必要である。そこで、食生活の領域でコンピュータの活用を考えた。家庭科の中でも食生活は比較的コンピュータ導入による学習効果が期待できる領域である。自分の食事や生活活動をコンピュータに入力することにより、摂取エネルギー、栄養バランス、消費エネルギーが瞬時に提示され、自己評価も確実にできる利点がある。手作業で費やしていた時間を、考察に使えるので、コンピュータの活用は有効である。

(2) 学習目標

ア 自分の1日の食事を入力して、栄養のバランスがとれているかどうかを診断する。

イ 1日の行動をコンピュータに入力して、消費エネルギーと摂取エネルギーのバランスがとれているかどうかを診断する。

ウ コンピュータから打ち出された総合判定を見て、自分の生活の問題点を認識し、健康で過ごすためには、自分の生活をどう改善していったらよいかを考える。

エ コンピュータに親しみ、生活の中で活用できる力を身に付ける。

(3) 事前準備

ア 事前に食事記録、生活活動記録を記入させておく。
イ データディスク、プログラムディスク、ワークシート、のり、はさみを配布しておく。

(4) 対象

2年1組38名(男子17名、女子21名)

(5) 授業の展開（2時間）

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 10	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容を確認する。 ○ワークシートに記名する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を画面に出す
展 開 70 分	<ul style="list-style-type: none"> ○生活活動強度について理解する。 ○基礎データを入力する。 ○プリントアウトする。 ○食事記録を入力する。 ○プリントアウトする。 ○行動記録を入力する。 ○プリントアウトする。 ○4人連続でプリントアウトされた用紙を切り分け、ワークシートに貼る。 ○考察を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活活動強度について教科書を使って説明する。 ・入力の仕方を助言する。 ・栄養診断入力説明文を読み、再度学習目標のアを確認させる。 ・活動係数一覧表の画面を読み、活動項目とエネルギー消費の強弱を確認させる。 ・運動診断説明文を読み、再度学習目標のイを確認させる。 ・総合判定、アドバイスプログラムを選択させるが、総合判定のみ印刷させ、コンピュータの操作を終了させる。 ・不足している栄養素を補うためには、どのような食品を摂ればよいのか成分表で調べる。
ま と め 20	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを完成し、提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の記入の様子を見て回り、適切にアドバイスする。 ・記入が間に合わない生徒にも、栄養バランスの考察だけは書かせる。

(6) 評価の観点

- ア データが正確に入力されたか。(食品、分量、生活活動内容)
- イ 自己の栄養摂取量や栄養バランスについて、正確に考察されているか。
- ウ 消費エネルギーと摂取エネルギーの関係及び生活活動と消費エネルギーの関係について理解できたか。そのことについて正確に考察されているか。
- エ 健康で過ごすために、改善点が理解できたか。

(7) 考察

- ア 生徒は入力に手間取ったので、時間が足りなくなると思い、終わりの部分を急いだ。そ

の結果、部分的にプリントアウトされない生徒が出てしまった。コンピュータ操作で、ポイントとなるところはゆっくりと、確実に伝達すべきであった。特に、最後の総合判定が印刷されない生徒がいて残念であった。総合判定の印刷のところまでは全員ができるよう配慮すべきであった。



イ 自己の栄養摂取や栄養バランスについては、バランスレーダーチャートや円グラフ、棒グラフにより過不足が一目で分かり、生徒も考察しやすかった。

ウ 生徒の考察は、記入する時間の不足や教師の説明不足もあって不十分であった。出てきた結果の読み取り方について、画面上の説明だけでなく、白板等を使って、もう少ししていいいに説明すべきであった。

エ 食事、生活活動に対する総合判定が得点化（100点満点）され、80点以上は合格、80～60点は要注意、60点以下は直ちに生活を改善するよう説明すると、生徒は歓声を上げて反応していた。自己の生活状況を客観的・視覚的に見るという点で、生徒の意欲・関心は高かった。この意欲を家庭科の他の領域の授業にも取り入れていきたい。

オ 本校は、今年度、校内研修改善推進校であり、「コンピュータを活用した指導法の開発」をテーマに、コンピュータ委員会を教員の校内組織として設置し、研修の充実を図っている。そこで、この授業を計画した。2名のコンピュータ委員に生徒のコンピュータ操作のサポートをしてもらい、チームティーチングの形態をとったので、私は教科指導に専念することを心掛けた。この授業の終わりにコンピュータ学習に対するアンケート調査を行ったが、大部分の生徒は「自分の食事や生活活動量について理解が深まった」と答えており、コンピュータ教材による授業を望んでいる。

今後、多くの教科でコンピュータを活用した学習を導入していくには、コンピュータ操作に関するガイダンスをまとめて実施する必要がある。

4 指導事例2 食品の多様化と消費者の態度 —新しい食品の選択—

(1) 題材設定の理由

生活が多様化・多忙化するに伴い、調理や食事にかかる時間が少なくなり、調理済食品の利用や外食の機会が増えていることもあって、食事の外食化・商品化の進展が著しい。特に近年、健康ブームの流れにのり、食品業界ではハイテク技術を導入し、次々と機能性食品やバランス栄養食品など新しい食品を開発・販売している。

しかし、消費者に対する情報の中には、商品のメリットだけを強調するなど誇大な表現や誤解を招く情報も多い。誤った情報判断によって、健康面に悪影響を及ぼす場合もあるので

消費者は与えられた情報を鵜呑みにせず、科学的知識に基づいた正しい価値判断によって行動できる力を身に付けていかなければならない。

そこで、新しい食品について、調査・分析し、その特徴や問題点を明らかにしながら価値判断をする学習を通して、情報活用能力を育成することや消費者としての責任ある消費行動等により、企業や行政に働き掛けることができることの認識が深められるように、この題材を設定した。

(2) 学習目標

- ア 健康食品・機能性食品・特定保健用食品の特徴を理解させる。
- イ 健康指向食品などの特徴や問題点を情報から調査・分析し、価値判断できる力を培う。
- ウ 様々な情報や視点から新しい食品に対する消費者としての在り方を考えさせる。

(3) 事前準備

- ア 事前にアンケート調査をし、生徒の食生活の実態を把握しておく。
- イ 事前に身近に食べている機能性食品やバランス栄養食品を集めさせておく。
- ウ 集めた食品や資料から情報を分析し、考察できるワークシートを作成しておく。
- エ 本や雑誌、新聞、官公庁や企業側からの資料を集め、価値判断できる参考資料を作成しておく。

(4) 対象 2年7組42名(男子19名、女子23名)

(5) 授業の展開(2時間)

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導 入 20	○本時の学習目標を知る。 医薬品や健康食品と機能性食品の違いを知り、特徴を学習する。 特定保健用食品について学習する。	本時の目標を確認させる。 ワークシートに記入させ、整理させる。	ワークシート (個人提出用)
展 開 30	○グループになり、集めた機能性食品やバランス栄養食品の成分を調べ、バランスシートを作成する。 ○ミネラルバランスや脂肪エネルギー比率も計算し、栄養バランスについて診断する。 ○調べた食品の特徴や問題点についてまとめる。 ○どういう時にその食品を食べたらよいか、その食品を食べるとき、どんな食品と一緒に食べればよいかなど気付いた点についてま	調べた結果を記入できるワークシートと電卓を配布する。 企業側からのリーフレットや教師が集めた食品から作成した参考資料も配布する。 ミネラルバランス、脂肪エネルギー比率の計算方法、栄養評価の仕方を説明する。	ワークシート (グループ学習用) プリント (グループで1枚)

	とめる。 ○発表の準備をする。	グループで発表する食品を指定する。	
展 開 20	(休憩) ○調査結果をグループごとに発表する。 ○参考になる発表結果をワークシートに記録する。	銘柄名、バランスシート、不足する栄養素、過剰すぎる栄養素、ミネラルバランス、脂肪エネルギー比率を板書させる。	グループ学習用ワークシートに記入
ま と め 30	○発表内容や参考資料により、健康指向食品などに対する消費者の在り方を考察し、ワークシートにまとめる。 ○本時で学んだことに対する感想をまとめる。	参考資料を配布し読ませる。 危害情報で健康食品に問題が多い例や栄養の過剰摂取、合成ビタミンの問題に触れる。 健康づくりの基本は、毎日の食事を充実させることであり、健康指向食品を利用する場合はその必要性を知って、あくまで食事の補助として利用するよう指導する。 また、消費者が責任ある選択要求をすることにより生産者に責任ある行為を促すことができることに気付かせる。	プリント 個人提出用ワークシートに記入

(6) 評価の観点

- ア 健康食品・機能性食品・特定保健用食品について理解できたか。
- イ 情報を調査、分析し、価値判断することができたか。
- ウ 新しい食品に対する消費者としての姿勢を培うことができたか。

(7) 考察

ア 事前アンケート調査結果から

バランス栄養食品などの健康指向食品の利用については、9割以上の生徒は食べた経験があると答え、その中でも2割の生徒はよく食べていると答えていた。その利用の仕方はおやつ代わりに食べている場合が最も多いが、次に多かった2割近くの生徒は食事代わりに利用していた。授業後の感想を読むと、漠然と健康に良いと考え、何も考えずに栄養成分も見ないで購入している生徒が多いことが分かった。授業でこの題材を取り上げたことで、自分の食生活の見直し、消費者としての購入時の価値判断について考える機会を与えることができたものと考え。生徒は普段何気なく食べていながらも気になっていた食品だけに、授業への取り組み方は積極的で、強い興味をもちながら楽しく学習していた。生徒の実態を把握して、生徒の生活に密着した題材を取り上げることの大切さを認識した。

イ 情報の調査分析

栄養成分からバランスシートを作成させたこと、一食に対しての栄養所要量の適正範囲を明示し、評価基準を決め○△×で評価させたことにより、生徒は分析、考察がしやすくなった。情報を価値判断するためには、正しい知識に基づく情報の整理・分析が重要であることの認識を深めた。

ウ 消費者としての姿勢

教師が知識を一方向的に与える授業展開ではなく、生徒にいろいろな情報を与え、生徒自ら分析・考察させることにより、望ましい消費者としての姿勢や消費者の在り方を考えさせたところ、ほとんどの生徒は教師が期待していた結論を導き出していた。

自分の価値判断に基づき、自ら納得し考察したため、生徒のワークシートの記入内容は一方向的に与えられる知識や情報より重みがあり、生徒の理解を深めることができたと感じる。また、このことより情報を価値判断できる力を養えたものと考えている。

(8) 生徒の感想（ワークシートより抜粋）

ア 健康に良いと思っていたけれど、栄養バランスはあまり良くなく、必要以上に摂取してしまう栄養素があるから、食事としてはふさわしくないことが分かった。これならば、三食しっかり普通に食べる方が良いと思う。

イ 今回の授業はとても役に立つ授業だった。鉄、ビタミンA、D、Eの比率にはビックリした。エネルギーがそれほど多くないからといって、安心してバクバク食べるのは非常に良くないと思った。

ウ これから先も機能性食品を食べることがあるだろうけれど、成分を良くみて自分にあった物を買うようにしたい。

機能性食品・バランス栄養食品の栄養成分や特徴を調べ、食べ方を考えてみよう。
製造・販売者名 (株) バランスシート

銘柄名 ○ ○ ○ ○

ラベル添付

栄養成分

●栄養成分(4本74gあたり)	ビタミンB1.....0.8mg
エネルギー.....368kcal	ビタミンB2.....1.1mg
糖質.....43.0g	ビタミンB6.....2mg
蛋白質.....5.6g	ビタミンB12.....2μg
脂質.....19.3g	ビタミンC.....50mg
灰分.....1.7g	ビタミンD3.....100IU
カルシウム.....600mg	ビタミンE.....7mg
鉄.....12mg	ナイアシン.....14mg
食塩.....0.2g	葉酸.....0.2mg
β-カロテン.....0.2mg	パントテン酸Ca.....5mg
ビタミンA.....600IU	

1食当たりの栄養成分	1食当たりの栄養成分													バランス		
	重 量 g	エ ネ ル ギ ー g	たん ぱ く 質 g	脂 質 g	ミネラル			ビ タ ミ ン						Mg / Ca 比	脂 肪 エ ネ ル 比 率 %	
					Ca mg	Mg mg	Fe mg	A IU	B1 mg	B2 mg	ナ イ ア シ ン mg	C mg	D ₃ IU			E mg
74g	368	5.6	19.3	600	23.1	12	600	0.8	1.1	14	50	100	7	0.04	47.2	
比率%	41	22	77	258	20	300	90	216	220	233	244	303	304			
*評価		△	△	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	X	△

* ○：問題ない（「1食分」の5割以上）、△：やや問題がある（5割未満または1日所要量以上）、×：問題がある（1日所要量の3倍以上）
：脂肪はエネルギー比率20～25%が適正とされる。その±5割（10～38%）の範囲のもの：○、範囲外：△
：Mg/Ca=0.5が望ましいとされる

5 指導事例3 視点を変えて調理した結果の比較検討

(1) 題材設定の理由

情報活用能力を身に付けるためには、情報を収集し、選択・判断し、行動するという経験を多く積むことが重要である。しかし、人間ができる行動や経験には限界があり、すべてのことに対して十分な経験をするには不可能である。経験以上の能力を身に付ける方法として、他者の行動や経験を自分のそれと比較・検討することにより、理想的な活動を導き出すという方法がある。ある点を重視する立場で行った調理実習を他の点を重視する立場で行ったものと比較・検討することは、これまでの学習の成果を基に、これからの食生活のスタイルを考えさせるために有意義であると考え、この題材を設定した。

(2) 学習目標

- ア 異なる視点を重視した調理を比較し、その利点や問題点を考察する。
- イ 理想的な食生活のスタイルを考える。
- ウ 自分の今後の食生活のスタイルを予想する。

(3) 事前学習及び準備

ア 献立の作成

主菜もしくは主食に鶏肉を用いるという条件で、5つの班が下記の5つの視点の1つを選んで、異なる視点から献立作成を行った。

- (ア) 健康を第一に考える家庭を想定し、食事の適量の摂取や栄養のバランスを重視する。
- (イ) 共働き家庭を想定し、調理の手間の軽減や時間の短縮を重視する。
- (ウ) 経済的負担の大きい家庭を想定し、より安価で経済的にすることを重視する。
- (エ) 食生活の安全性を考え、残留農薬や不要な食品添加物を極力抑えることを重視する。
- (オ) 食生活を楽しむ家庭を想定し、こだわった食材選びや調理方法の工夫を重視する。

イ 調理実習

作成された献立に合わせて食材を購入し、調理実習を行った。その際、盛り付けられた献立の写真撮影をした。

ウ 実習報告書の作成

調理実習時に作った献立とその時かかった費用、時間、満足度などを記入し、栄養バランスチャートと盛り付けた写真を添える。また、献立作成に当たって活用した情報や献立決定までの過程を記入する。

(4) 対象 2年4組22名(男子9名、女子13名)

(5) 授業の展開(2時間)

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導 入 25	○本時の目標の確認 ○実習報告書の完成	本時の作業及び実習報告書の書き方等を説明する。 報告書の作成を通して、実習結果を整理し、班が重視したポイントを見直す。	実習報告書・写真 バランスチャート 配布

	○実習結果の発表	報告書に基づいて発表する。	班の一人が発表
展 開 25	○自班と他班との比較 自班が優れている点と問題 となる点とを整理し、指摘 する。	〔長期的視点・短期的視点 部分的視点・全体的視点 現実的視点・理想的視点 などの角度から比較させる。 (休憩)-----	班の別の生徒が発表
展 開 20	○他班に対する指摘 異なる視点からさらに問題 点を掘り下げる。 ○指摘された点の弁明 他班の指摘に対する回答を する。	自班の視点を重視した上で他班の 問題点を指摘させる。 指摘された点の解決方法を考える に当たっては、あくまでも自班の 視点を尊重させる。	班の別の生徒が質問 班の別の生徒が発表
ま と め 30	○理想的な食のスタイルを決 定する。 ○自分の食のスタイルを予想 する。	自班の視点に、他班のどんな発想 を取り入れると理想的になるか という形で整理させる。 これまでの討論を参考にして、自 分が食について何にこだわりたい か、予想させる。	班員の意見を整理 作文用紙

(6) 評価の観点

- ア ある視点を重視することによって生じる
利点と問題点について整理できたか。
- イ ある視点を重視し過ぎるよりも、他のも
のをそれに組み入れた方がより理想的にな
ることが理解できたか。
- ウ 得られた情報を整理して、自分の食生活
のスタイルというものを予想できたか。

(7) 考察

- ア 自班の重視する視点に対しての詰め
の甘さが見られる班があった。献立作成段階
での指導をもっと充実させる必要性を感じた。
- イ 撮影をした写真を焼き増しして実習報告
書に添付したことにより、実物に近い形で
比較ができ、議論がより活発になった。
- ウ 実習結果を比較するには多少情報の不足
が感じられた。実習報告書に用いた食材を
細かく記入させたり、摂取した食品添加物
などを記入させる必要性があった。

実 習 報 告 書

班 員 名：2年 4 組

重視した立場：献立の経済性

献 立：マヨネーズ
お肉のステーキ用
ポテトサラダ
コーンスープ

※献立作成時に活用した情報
お肉のステーキ

※その献立に決定した理由
経済性に優れているから

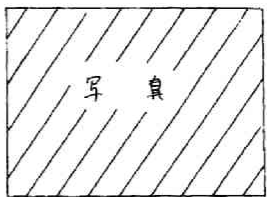
費用：総額 1142 円
(一人当たり 360 円)

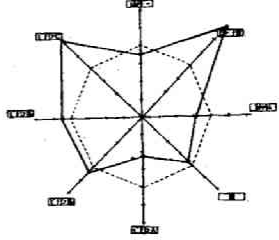
時間： 95分

満足度： A

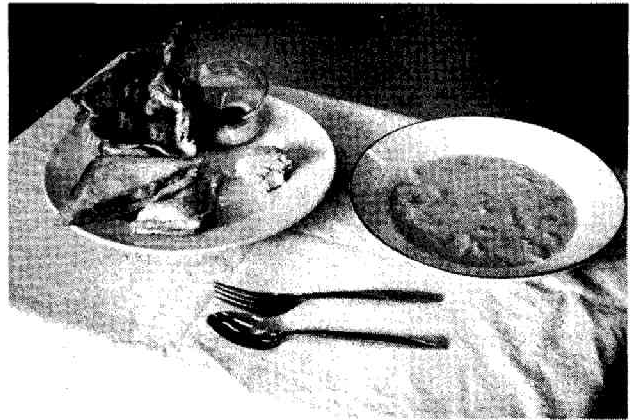
評 価：栄養バランス A
調理の簡便さ B
献立の経済性 A
食品の安全性 B
食の楽しさ A
総合評価 = A

反省点および感想
1.お肉の味付けがもう少し甘くしたかった





エ 議論の際に、自班の視点にあくまでもこだわらせるといふ姿勢を一貫させたことにより、逆にいろいろな視点を取り入れなくては理想的な形にはならないということを理解しやすくしたものと思われた。



(8) 生徒の感想

今回の授業を通じて、食生活を送るには、健康や経済、時間、文化など様々な視点から考えなくてはならないと実感した生徒が多かった。

何を食べるかを決める際には、ただ空腹を満たせばいいというものではないということに気付いた生徒が多数いた。また、将来、独立して生活を送る際、きちんとした食生活が送れるのか不安になったり、同時に毎日それをきちんとしてくれている親（特に母親）の偉大さを実感したりしたという生徒の感想が印象に残った。

6 指導事例 4 米をテーマにした発表・討論学習

(1) 題材設定の理由

食生活が欧米化し、高たんぱく質・高脂質食になったことにより、栄養のバランス等から日本型食生活の良さが再認識されて久しい。しかし、農業人口の激減、減反の増加、米の一部輸入自由化等から、日本の農業は危機に直面している。さらに、日本の食料自給率は先進国の中で最下位であり、安全な食料を常に得ることが難しくなっている。日本の主食である米についてしっかりした考えをもつ必要がある。そこで、安全な食生活を守るために米作りの意義を見直し、環境を破壊せず後世に残すためにも、自分は何をなすべきか、何ができるかを考えて実践することが必要であると考え、この題材を設定した。

(2) 学習目標

ア 米に関する個人・グループ調査を通して、情報を収集・整理する能力を養う。

イ 米問題の研究発表、討論を行うことにより、情報を判断・分析し、活用する力を養うとともに、食生活に対する自分自身の考えを明確にする。

ウ 安全性、環境保全の上に立った食生活を実践する力を育成する。

(3) 事前学習

ア 「安全性の高い米を安定して得るには」という全体のテーマを基に、各班でそれぞれの研究テーマを決める。

イ テーマに基づいて個人分担をして、米に関する情報を収集し、整理・選択する。

ウ 班単位でテーマに沿って話し合い、まとめのプリントを作成する。研究発表で最も言いたいことを表すキーワードを考え、アンダーラインを引いておく。

エ 班ごとに発表をする。聞いている生徒は発表に対する自分の考えと研究内容、発表態度について評価する。

(4) 対象 2年4組（女子39名）

(5) 授業の展開 (1時間)

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導 入 5	<p>○本時の学習目標を知る。 前時の発表学習の要点を再確認する。</p> <p>○「安全性の高い米を安定して得るには」について自分の考えを明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究冊子を見ながらキーワードを確認させる。 ・米問題は様々な面から考えられるが、あわせて生産者、流通業者、消費者、政府等の視点から考えられることを知らせる。 	<p>研究冊子 (班のまとめのプリントを綴じたもの)</p>
展 開 35	<p>○班でバズセッションする。(約10分) テーマに基づいて、様々な視点から総合的に考えて討論する。</p> <p>○班の話し合いにおいて自分の意見をそれぞれ述べる。</p> <p>○班で出た意見の要点またはキーワードをカードにマジックで書く。</p> <p>○カードを黒板に掲示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>気候に影響を受ける農作物 自給自足 主食としての米 食べ物の安全管理 水田による環境保全 等</p> </div> <p>○班の意見を発表する。</p> <p>○発表者の意見を聞きながらメモを取る。</p> <p>○自由にそれぞれの意見を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが円滑に進むように指示する。 ・班の意見が論理的になるように指示する。 ・カードには簡潔明瞭に大きな字で横書きにするように指示する。 ・各班の意見にキーワードを入れて発表させる。 ・質疑応答の時間をとる。 ・発言の要点を板書する。 	<p>班意見カード用紙</p>



ま と め 10	<ul style="list-style-type: none"> ○米作りの重要性を確認する。 ○安全性、環境保全を根底に据えた食生活について考え、どのように実践すればよいかまとめる。 ○情報を収集し、その質を分析・判断し、伝達することの重要性を知る。 ○次回の内容について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表された意見の相違点を明らかにする。 ・自立した生活者としてどのように行動すべきか考えさせる。 ・情報の客観的理解、質の分析・判断、情報処理・伝達等について確認する。 ・調査、研究、発表、討論を行った意義を確認する。 	指示棒
-----------------------	--	---	-----

(6) 評価の観点

- ア 情報の質を分析・判断し、活用して問題解決ができたか。
- イ 安全性の高い米を安定して得るには、環境保全等を踏まえ、どのように実践すればよいか具体的な案がまとまったか。

(7) 考察

- ア このような情報の収集・分析の自由研究的な発表は、生徒も初めての試みであったため、もう少し情報の収集・分析の時間を十分にとるべきだった。
- イ 単に発表のメモを取るのではなく、発表に対する自分の考えを記録させるようにしたため、生徒は自分の課題として受け止め、一生懸命に取り組んでいた。
- ウ 生徒は、本、パンフレットなどから多くの情報を集めてきたが、古い情報であったり、情報の収集が偏ったりしていたので、もっと情報の“質”を判断させることが必要だった。
- エ 「安全性の高い米を安定して得るには」という全体のテーマについて、まず個人で調査・研究して自分の考えをまとめ、さらに班で個人研究のまとめの冊子を作り、クラス全体での班の発表と討議を通して考える演習が、不十分ではあるができた。その過程を通して生徒が自ら考え実践する力を身に付ける一助となったと確信できた。
- オ 情報化の進展する社会では、情報を集めるだけでなく、その質を吟味し、評価し、様々な視点、立場から総合的に問題解決をしていく実践力が必要である。そのために調査・研究、発表、討論という指導方法を今後も模索していきたい。

(8) 生徒の感想

- ア 今の時代は、様々な情報があふれているけれど、客観的な判断によって私たちにあった正確な情報を得ることが大切だということが分かった。
- イ 自分が食べる米なのだから、自分でその米が安全かどうか確認することが大切だ。生産地、生産者、いつできたのか、農薬使用はどうかなど表示をきちんと見る必要がある。自分の目で確かめて買わなくてはいけない。そういうことが分かって良かった。
- ウ 米の発表・討論学習で、米問題を私たち消費者はもっと意識することが大切であることが分かった。また、輸入米の検査をもっと真剣に考えねばならないと思った。

V 「住生活」の指導

1 年間指導計画（13時間）

○学習に入る前に「住生活」に関する新聞の切り抜きを集め、まとめさせておく。

指導項目	時間	指導内容	情報活用
1 住居の機能の変遷 住居と人間形成	1	人間はなぜ、住居を必要としたのかを住居の歴史から考えさせる。	新聞記事
	1	身近な題材を使って、家族と間取りについて考えさせ、家族の住居は時代とともにどのように変化してきたかを考えさせる。	「よい家づくり 悪い家づくり」 国民生活白書
2 住居の変遷 (設計の視点で)	1	様々な住居の平面図を使って、住まい方や住空間について学ばせ、平面図の読み方を知らせる。	副教材資料
3 住居の居住性	1	建売住宅の間取りに家族を住ませ、使用方法を考えさせる。また、不都合な所の改築も行い住居と家族の在り方考えさせる。	不動産広告
4 住居の選択と 情報活用	1	新聞の折り込み広告を使い、不動産の購入について考える。選んだ物件から学校に通う交通手段と通学時間を考えさせる。	不動産広告
	2	不動産広告から分かる物件情報と購入の際に必要な知識についてまとめさせる。 その発展学習として一人暮らしを始める際の情報収集の手段を考えさせる。〔事例5〕	ビデオ「マイホームマイルーム」 賃貸住宅情報誌
5 現代の住宅問題 (一人暮らしの住空間演習) (高齢社会の住居)	1	ワンルームに、水回りや動線を考えて設備や家具の配置をし、さらに家庭電気についての演習も同時に行わせる。	TEPCOでんきガイド
	1	ちびまる子ちゃんの広告等を活用して高齢者と住居について考えさせる。	企業のパンフレット
	1	都会の住まいと健康の関係、高齢社会に向けての住居における問題点や日本の住宅政策・住宅取得の問題点を考えさせる。	新聞記事、東京都住宅白書、生活プランハンドブック
6 住居の環境、整備・美化	2	快適な住居の在り方を様々な視点から考えさせる。	「考えよう住まい」、インテリア雑誌
7 住まいの変遷と家族	1	これまでの学習の総括として新聞記事を活用し、住まいと家族の在り方考えさせる。	「住まいが決める日本の家族」

2 指導事例5 一人暮らしの住宅探し

(1) 題材設定の理由

豊かな住生活を実現するための課題を探る一つのアプローチとして、生活者としての視点で情報を活用し、主体的に判断し、行動できる能力を育成する授業展開について研究した。賃貸住宅情報誌を活用し、一人暮らしのための住居を探すことにより、住宅問題について考えさせるとともに、必要な住宅情報の収集方法、情報誌の見方・活用方法を知り、実生活の中でどう応用していけばよいか考えさせることにした。

(2) 学習目標

- ア 住生活分野で自立した生活をするための情報へのアクセスを考える。
- イ 具体的な不動産情報の種類を知る。
- ウ 収集した情報の取捨選択をする力を身に付ける。

(3) 事前準備及び資料

- ア 新聞に入る不動産広告から得られる情報を整理しておく。
- イ 賃貸住宅情報誌（4種類）を生徒の人数分だけ用意する。

(4) 対象 1年1組 43名（男子21名、女子22名）

(5) 授業の展開（2時間）

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導 入 10	○本時の学習目標を知る。 不動産広告を利用した授業から得られた情報の整理をし、実際に購入する際の留意点について考える。	・前時に提出した不動産広告のワークシートを返却し、これを見させる。	不動産広告のワークシート
展 開 40	○不動産の物件を一戸建てと集合住宅に分け、知りうる情報を整理する。 ○不動産広告によって得られる情報に差があることを知る。 ○ビデオ「マイホーム・マイルーム」をワークシートに記入しながら視聴し、一人暮らしの住宅探しの過程について考える。	・専門用語資料プリントを見ながら、購入の際に必要な項目や専門用語の意味を整理させる。 ・ビデオの視聴の前に、一人暮らしをする時の住宅は、どのようにして探すとよいか質問をしておく。	専門用語資料 副教材資料 ワークシート ビデオ「マイホーム・マイルーム」
	(休 憩)		
展 開	○自宅に近い場所での賃貸住宅を賃貸住宅情報誌を使い、探してみる。 ○住宅情報誌の見方を知る。ワークシートに記入する。 ○自分の家の立地条件や周辺環境等のチェックをする。	・ビデオでの学習を生かして自宅近辺で収入に見合った賃貸住宅を探させる。（手取り15万円とする） ・土地勘があるからチェックできることに気付かせる。	賃貸住宅情報誌 ワークシート

40	○住まうという行為には様々な問題があることに気付く。	・情報の取捨選択に付随する知識の重要性を知らせる。	
まとめ 10	○どのような情報があったか各自で整理する。	・次回は一人暮らしの住空間演習へと発展させることを知らせる。	ワークシート 提出

(6) 評価の観点

- ア 不動産に関する情報へのアクセス、収集方法を理解できたか。
- イ 集めた情報量が自分にとって適切であり、その情報を判断して意思決定ができたか。
- ウ 住環境（立地条件や周辺環境）をきちんと整理・評価し、発展的意見が述べられたか。

(7) 考察

一人一人が賃貸住宅情報誌を手にして情報を得る授業展開は、かなりの興味を引き付けたようである。情報誌の種類によっては、求める情報が不足するものもあり、一種類だけの検討は良くないことにも気付かせることができた。この授業を通して、間取りに望まれる居住性のチェック、自宅の立地条件や周辺環境を見直し、住宅問題全般について考え、自分の住生活の在り方について考えることができるようになった。

(8) 生徒の感想

生徒は、賃貸住宅情報誌に書かれているメッセージを読み取ることに興味をもったようだ。賃貸住宅探しをしたことで、「角部屋という点にひかれた」「ペットの相談ありはいい」「木造でも暖かみがありそう」などの感想があった。また、周辺環境チェックをしたことで「いろいろトータルして考えることは大変だ」「様々な住環境があることに気付いた」などと書いてあり、住生活への興味・関心が深まったと思われる。

<p>住生活・賃貸住宅を探してみよう</p> <p>自分の町でひとり暮らしをしてみよう。(電話番号157番は17歳以上で利用可能)</p> <p>賃貸住宅情報誌を見て、情報を整理しなさい。</p> <p>もくじ(インデックス)を使い、簡単に自分の町を見つけよう。</p> <p>記入出来ない箇所は、赤で○をつけなさい。</p>	<p>今住んでいる自分の家の立地条件や周辺環境をチェックしてみよう。</p> <p>項目に達し、得意に○をつけ合計点を出してみよう。</p> <p>(わからない項目は1点として合計を出すこと)</p>																																																										
<table border="1"> <tr><td>主なチェック項目</td><td>チェック内容</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="2">交通利便性の状況</td><td>駅から自宅までの交通機関</td><td>徒歩のみ 3 自転車利用 2 バスの利用 1</td></tr> <tr><td>その他大通り・踏切横断で危険? 時間が不定? など</td><td>無 2 有 1</td></tr> <tr><td rowspan="4">最寄りの駅から 高校までの交通手段と所要時間</td><td>30分以内</td><td>4</td></tr> <tr><td>60分以内</td><td>3</td></tr> <tr><td>90分以内</td><td>2</td></tr> <tr><td>それ以上</td><td>1</td></tr> <tr><td rowspan="10">公共・公益施設・生活利便施設の状況</td><td>自宅からその施設までの交通手段と所要時間</td><td></td></tr> <tr><td>・役所等: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・郵便局: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・病院: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・公園: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・銀行: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・商店街: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・スーパー: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・コンビニ: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・デパート: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>・レジャー施設: ()で()分</td><td></td></tr> <tr><td>徒歩で15分以内が5個以上</td><td>5</td></tr> <tr><td>徒歩で30分以内が5個以上</td><td>3</td></tr> <tr><td>上記以外(該当しない)</td><td>1</td></tr> <tr><td rowspan="3">周辺の住環境の状況</td><td>鉄道、高速道路・幹線道路、工事などの騒音・振動の影響を受けるか? 無3・有1</td><td>3</td></tr> <tr><td>高層住宅などによる日照の影響を受けやすいか? 無3・有1</td><td>3</td></tr> <tr><td></td><td>1</td></tr> <tr><td colspan="2">すべて記入して、合計点を、得意に○をつけて</td><td>合計</td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td>20</td></tr> </table>	主なチェック項目	チェック内容		交通利便性の状況	駅から自宅までの交通機関	徒歩のみ 3 自転車利用 2 バスの利用 1	その他大通り・踏切横断で危険? 時間が不定? など	無 2 有 1	最寄りの駅から 高校までの交通手段と所要時間	30分以内	4	60分以内	3	90分以内	2	それ以上	1	公共・公益施設・生活利便施設の状況	自宅からその施設までの交通手段と所要時間		・役所等: ()で()分		・郵便局: ()で()分		・病院: ()で()分		・公園: ()で()分		・銀行: ()で()分		・商店街: ()で()分		・スーパー: ()で()分		・コンビニ: ()で()分		・デパート: ()で()分		・レジャー施設: ()で()分		徒歩で15分以内が5個以上	5	徒歩で30分以内が5個以上	3	上記以外(該当しない)	1	周辺の住環境の状況	鉄道、高速道路・幹線道路、工事などの騒音・振動の影響を受けるか? 無3・有1	3	高層住宅などによる日照の影響を受けやすいか? 無3・有1	3		1	すべて記入して、合計点を、得意に○をつけて		合計			20
主なチェック項目	チェック内容																																																										
交通利便性の状況	駅から自宅までの交通機関	徒歩のみ 3 自転車利用 2 バスの利用 1																																																									
	その他大通り・踏切横断で危険? 時間が不定? など	無 2 有 1																																																									
最寄りの駅から 高校までの交通手段と所要時間	30分以内	4																																																									
	60分以内	3																																																									
	90分以内	2																																																									
	それ以上	1																																																									
公共・公益施設・生活利便施設の状況	自宅からその施設までの交通手段と所要時間																																																										
	・役所等: ()で()分																																																										
	・郵便局: ()で()分																																																										
	・病院: ()で()分																																																										
	・公園: ()で()分																																																										
	・銀行: ()で()分																																																										
	・商店街: ()で()分																																																										
	・スーパー: ()で()分																																																										
	・コンビニ: ()で()分																																																										
	・デパート: ()で()分																																																										
・レジャー施設: ()で()分																																																											
徒歩で15分以内が5個以上	5																																																										
徒歩で30分以内が5個以上	3																																																										
上記以外(該当しない)	1																																																										
周辺の住環境の状況	鉄道、高速道路・幹線道路、工事などの騒音・振動の影響を受けるか? 無3・有1	3																																																									
	高層住宅などによる日照の影響を受けやすいか? 無3・有1	3																																																									
		1																																																									
すべて記入して、合計点を、得意に○をつけて		合計																																																									
		20																																																									

IV 「保育」の指導

1 年間指導計画

※調査ワードについては各授業の前に生徒に調べさせる。

指導項目	時間	指導内容	情報活用
子供の成長と親の役割 1. 青年期の生き方と結婚 (1) 青年期の特徴と健康管理	2	<ul style="list-style-type: none"> 情報の種類、収集の方法を説明する。 ジェンダーと自分らしさについて考えさせる。 青年期の心身の特徴及び健康管理の重要性について認識させる。 調査ワード モラトリアム、ジェンダー等	現代用語の基礎知識 新聞（投書） 新聞記事 資料 「さらば、悲しみの性」
	2	<ul style="list-style-type: none"> 恋愛と結婚を比較しながら、自分が求める人間関係について考えさせる。 人工妊娠中絶、STDについて説明する。 調査ワード 胎児性アルコール症候群等	新聞記事
	2	<ul style="list-style-type: none"> 結婚観に関する調査を、グループで分析、発表させる。 レポート「データから見た結婚」 	総理府調査 経済企画庁調査 毎日新聞社調査
2. 乳幼児の成長と生活	2	<ul style="list-style-type: none"> 乳児の能力、精神的発達に重点をおいて説明する。 調査ワード 生理的体重減少等	視聴覚教材 「赤ちゃんこのすばらしき生命」
3. 親の役割と家庭教育	2	<ul style="list-style-type: none"> 新聞縮刷版と新聞を利用して、「子供が被害者」である記事を検索させる。 子供の権利について説明する。 〔事例6〕 	新聞縮刷版 新聞
(1) 子供の成長と親子関係	2	<ul style="list-style-type: none"> 子供の成長には、育てられる場での人間関係が、大きな影響を及ぼすことを理解させる。 親側がかかえる問題を考えさせる。 調査ワード ホスピタリズム等	新聞記事
(2) 生活習慣の形成と家庭教育	2	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や社会的な生活習慣を身に付けさせる必要性を認識させる。 	総理府調査

		<ul style="list-style-type: none"> ・乳児と養育者の生活時間を比較させる <p>調査ワード アダルト・チルドレン等</p>	資料 「男も育児休職」
まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・他国の子供の生活環境に関する新聞記事から、問題点を整理する。 	新聞記事
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート「親の役割」 	資料 「世界子供白書」

2 指導事例6 子供を取り巻く生活環境の問題を探る

(1) 題材設定の理由

子供には、その時代の大人を越えて発達していく可能性がある。それにもかかわらず、多くの子供たちが、様々な生活不安にさらされ、問題をかかえ、その可能性を奪われている。社会が生活上の問題をかかえた場合、その影響はまず子供に現れる。本授業では、子供を取り巻く生活環境の問題を知るために、身近な情報源である新聞からの情報収集を試みた。様々な問題を知ることにより、大人は何をしてきたのか、親の役割とは何か等を考えるきっかけとしたい。

(2) 学習目標

- ア 新聞縮刷版・新聞からの情報収集法を知る。
- イ 子供を取り巻く環境の問題を知る。
- ウ 子供の権利に対する考え方、児童の権利に関する条約等を学ぶ。

(3) 事前準備及び資料

- ア 新聞縮刷版をクラスの人数分よりやや多めに準備しておく。
- イ 子供の権利に関するプリントを作成する。

(4) 対象

2年1組 32名（男子18名 女子14名）

(5) 本時の展開（2時間）

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導入 5	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習目標を知る。 ○新聞縮刷版の利用法を学習する。 		新聞縮刷版
展 開 45	<ul style="list-style-type: none"> ○索引を利用し、新聞縮刷版から、「子供が被害者である」記事を探し、日付、記事の要約、感想等をワークシートに記入する。 ○記事にキーワードをつけ、グループごとに記事の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を18歳未満と定義する ・時間に余裕がある場合は、新聞でも同様の作業を行わせる。 ・キーワードは分類項目として利用するので、グループごとに報告させる。 	新聞縮刷版 ワークシート 新聞
	(休憩)		

展 開 40	<p>○キーワードを確認し、これを分類項目として記事を分類する。</p> <p>○グループごとに、分類別件数、感想を発表する。</p> <p>○子供の権利について知る。</p>	<p>・子供の権利の歴史、児童の権利に関する条約の骨子を説明する。</p> <p>・児童福祉法の要保護児童発見者の通知義務についても説明しておく。</p>	プリント ワークシート
ま と め 10	<p>○子供を取り巻く環境の問題点を整理する。</p> <p>○児童の権利に関する条約の骨子を確認する。</p> <p>○次時の内容を知る。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①飢え・貧困 ②病気 ③教育 ④虐待 ⑤搾取 ⑥安全 ⑦その他</p> </div>	世界子供白書

(6) 評価の観点

- ア 新聞記事の検索ができたか。
- イ 子供を取り巻く環境の問題を理解できたか。
- ウ 子供の権利について理解できたか。

(7) 考察

- ア 新聞の縮刷版は、初めて見るという生徒も多く、熱心に取り組んでいた。記事を探す時間は十分確保する必要がある。縮刷版の索引・タイトルを利用して記事の検索を試みたが、タイトルから内容を推測することは、生徒にとってやや難しかったようだ。
- イ グループ活動には、意欲的に取り組んでいた。内容を確認するための時間は、ゆとりをもって設定し、記事に関する意見交換もできるようにしたい。グループでの意見交換は、価値観の形成にも大きな影響を与えると感じた。
- ウ 新聞を読んでいない、社会的な情報をキャッチしていない生徒が多い。授業には、タイムリーな話題、日常的な情報収集等をもっと取り入れ、自分の身の回りのことだけでなく、人間の生活全般に対する興味・関心を深めていきたいと思う。
- エ 生徒の感想からは、児童虐待と児童の権利に対する関心が高いことが分かった。これを単なる知識ではなく、生徒の行動に結びつくような意欲に高めたいと考える。そのためには、授業だけではなく放課後等の個別対応もしていきたい。

(8) 生徒の感想

- ・傷ついている子供たちを守るのは大人だと思うし、自分もその一人になりたい。
- ・児童の権利に関する条約を学んで、私が大人になったら条文のすべてが実現されている社会をつくりたいと思った。
- ・子供を守るための条約等の多さ、児童に対する犯罪の多さに驚いた。児童に対する犯罪をもっと減らすように、世界全体が努力していかなければならないと思う。
- ・子供にも様々な問題があることが分かった。これからは少しでも新聞に目を通したい。

Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

本年度の教育研究員は、「情報活用能力を培い、自立した生活者を育成する指導内容・方法の工夫」を主題に、情報化が進展するこれからの社会を生きる生徒に、氾濫する生活情報の中から適切な情報を選択し、活用できる能力を育成する指導法について研究した。

まず、情報活用能力の育成については、情報化社会に主体的に対応し、情報を十分に活用できる技能を身に付けさせるとともに、情報の重要性を理解させ、情報に対する責任感をもたせることと考えた。また自立した生活者とは、変化の激しい時代にあって、社会に対応し主体的に価値判断ができ、意欲的・創造的に生活できる人間ととらえた。

以上のことから、家庭科における情報活用能力の育成に当たっては、情報を収集・選択し判断して意思決定をする過程に重点をおいて指導することが大切であるということを確認した。これは消費者教育の「過程の教育」の一部でもある。そこで日常生活の中で身近な情報を収集・選択し、適切な価値判断の下に意思決定をし、評価しながら実践へと導く学習を食生活、住生活、保育の三領域で実践した。

指導事例1では、情報化の中心となるコンピュータを栄養診断において活用した。情報機器の操作技術の習得は、情報の整理や選択をする上で必要になる。生徒は自分の食事や生活活動を入力することにより、摂取エネルギー、栄養バランス、消費エネルギー等を瞬時に知ることができ、自分の食事や生活に対する理解を深めることができた。指導事例2では、機能性食品等の新しい食品について、様々な情報や資料から調査・分析させ、その特徴や問題点を明らかにしながら価値判断をさせた。指導事例3ではグループごとに異なる視点をもとに献立を作成し、調理し、その結果を比較検討することにより、理想的な食生活のスタイルを考えさせた。指導事例4では、「米」をテーマに個人で調査・研究して、その結果を班でまとめて発表し、クラス全体で討論を行うことにより、情報を収集・整理し、判断・分析する力を養うことを試みた。以上の実践により、食生活に対する生徒の理解を深め、生活を積極的に改善していこうとする意欲を育てることができた。また、情報を適切に選択・整理し、意思決定をすることの大切さを理解させるとともに、消費者としての在り方について認識を深めさせることができた。

次に、住生活では、情報活用を一人暮らしの住宅探しの学習で試みた。賃貸住宅情報誌を活用することにより、個人の住宅から社会全体を取り巻く住環境について考えることができ、今後の住まいの在り方を判断するのに有効であった。保育においては、子供を取り巻く生活環境の問題を知るために、身近な情報源である新聞から情報収集を試みた。グループに分れて、項目ごとに記事を分類し感想等を発表することにより意見交換ができ、個々の価値観形成に影響を与えることができた。

これらの実践により、消費者教育における意思決定の過程の学習を通して、情報を選択し、判断し、処理する能力を育成するとともに、情報に対する責任ある態度を身に付けさせることができると確信した。今後、情報の発信者として新しい情報を創造し、伝達する能力を身に付けさせる指導の充実が課題である。このため、インターネットの活用も含めて家庭科におけるコンピュータの活用を推進していく必要がある。同時に、教員の情報活用能力を高めていくことが大切であり、教員研修の充実が望まれる。